Opening act

https://twitter.com/rina_m_1999

https://twitter.com/koueita3156

Set list

1 Message
2 太陽が僕らを照らすから
3 紙ひこうき
4 空も飛べるはず (Spitz)
5 白い恋人達 (桑田佳祐)
6 カレーライス (KAN)
7 勇気りんりん (アンパンマン)
8 幸せのメロディー
～アンコール～
9 カラフル

音楽活動10周年を記念してフルアルバムを完成!!
「Rainbow」(税込1,500円)
会場にて発売中!!

スマホ対応済みの、
iTunes Store・Amazon
mp3・music.jp ネット配信中!
詳しくは、横の QR コードをチェック!!

アンパンマン 勇気りんりん

勇気の鈴が りんりんりん
ふしぎな冒険 るんるんるん
アンパン しょくぱん カレーパン
ジャムバタチーズ だんだんだん
ルンルンかわいい おむすびまん
ゴシゴシみがくよ はみがきまん
めだまが らんらん ばいきんまん
それゆけ ぼくらの アンパンマン

名犬チーズ わんわんわん
きもちがわるいな かびるんるん
あまいのだいすき アンコラ
てんてんどんどん てんどんまん
どこから きたのか へんななかま
ほらほらはじまる おおさわぎ
なんなんなんでも とんちんかん
ぼくらのともだち アンパンマン

ドキドキさせるよ ドキンちゃん
やさしい顔の ジャムおじさん
バタバタ はしるよ バタコさん
みんながだいすき アンパンマン

カラフル KAZオリジナル

その瞳には　どんな景色が映るのだろう
色とりどりの　キラキラした
この素晴らしい世界が　君を待っている

玄関の扉開けて　思い切り外へ駆けてゆく
胸のドキドキは　誰にも止められない

青い空　頬を流れていく風
その全てが　新しい感触　さぁ冒険が始まる

君の瞳には　どんな未来が待ち受けるだろう
白いキャンバスに　君だけの
カラフルな色たちが　描かれていく

悲しくて泣いた日も　嬉しくて笑顔になる日も
一つ一つが想い出にかわる

広い大地　光に包まれ
真っ直ぐに　歩く道を照らす
冒険の続きが始まる

その瞳には　どんな奇跡が煌めくのだろう
モノクロの日々に　暖かな
虹色を連れてくる　君の元へ

君次第で　どんな色にも交わる
自由自在に思いの丈を描こう
カラフルな日々が始まる

君の瞳には　どんな奇跡が煌めくのだろう
モノクロの日々に　暖かな
虹色を連れてくる

僕たちの瞳には　素敵な未来が待ってるよ
そんなこと想い　毎日に感謝しながら

その瞳には　どんな景色が映るの
誰のものでもない　君だけの色を探そう
世界はこんなにもカラフルに染まっている

Let's sing

KAZ CHARITY LIVE 2017
To a heart of children VI

世界はこんなにもカラフルに染まっている

To a heart of children

「子どもたちの心に」という意味です。活動を続けていく中で、私たちなりの想いや考えを受け止めていただき、その子どもたちが大人になった時に、また次の世代へ繋がっていけばという想いからタイトルを付けました。

Vol. VI 寄付先

今年は、児童養護施設　旭川育児院（旭川市台場2条2丁目3-45）に寄付させていただきます。例年同様、寄付の使われ方は、子どもたちが参加する、行事やレクで必要な経費（飲食代など）に充てられます。寄付の様子などはKAZのHPに随時アップしてまいります。また次のTo a heart of children Vol. VIIでお渡しするパンフレットにも掲載させていただきます。

目 的

児童養護施設で暮らす子どもたちのために何かできることはないかと考え、ずっと活動を続けてきた音楽ならスタートしやすく伝わりやすいと考えから、ライブを通じて収益・募金、全額を寄付するチャリティーライブをはじめました。最低でも10回はやろうと決めて、今回で6回目の開催になります。

音楽活動時の名前：KAZ（本名：熊野宏和）
年齢：40歳
職業：ドン・キホーテシェアードサービス（事務員）
自身の病名：先天性多発性関節拘縮症（詳細は HP 参照）
HP：http://kaz-sing.com/
CharityHP：http://kaz-sing.com/charity/
Mail：kaz@kaz-sing.com

札幌を中心に音楽活動をしている「車椅子の歌うたい KAZ」です。生まれつき身体に障がいを抱え、日々の生活を電動車椅子に乗りながら生活しております。ただ音楽が好きという想いから、不自由な手でもギターが弾ける方法を、独自でギターの弦を上から手で押さえるという弾き方をあみだし、作詞・作曲・歌・ギターの演奏までを一人でこなし、人前で歌うようになって15年目になります。

活動を福祉の場へも向けるようになり、2010年から児童養護施設で暮らす子どもたちのために何かできることはないかと考えて、自身で企画したチャリティーライブを通じて、チケットの売り上げ、会場での募金、全額を寄付し、少しでも子どもたちに「喜んでもらいたい」という想いから活動を始めました。

活動歴

2003.11　テレビ朝日ストリートファイターズで取り上げられる
2005.05　1st CD「Message」発売、11月、2rdCD「ノエル。」発売
2006.11　3rdCD「君へノ贈リモノ」発売
2008.03　道新に特集を組まれる、8月、HBC テレビ Hana テレビに特集を組まれる
2008.10　4thCD「桜の木の下で」発売
2009.08　HBC テレビ総力報道！ THE NEWS に特集を組まれる
2010.09　チャリティーライブの宣伝で朝日新聞に取り上げられる
2010.09　「To a heart of children」Vol.1 スタート
2010.10　児童養護施設訪問が道新日高版、日高報知新聞に取り上げられる
2011.07　5thCD「希望の灯」発売（全額東日本大震災被災地の児童養護施設へ寄付）
2011.10　「To a heart of children」Vol.2　開催
2012.07　6thCD「Rainbow」発売（売上の一部をチャリティー先に寄付）
2012.10　「To a heart of children」Vol.3　開催
2013.11　「To a heart of children」Vol.4　開催
2014.04　6thCD「Rainbow」の iTunes Store などのネット配信開始
2014.05　札幌人図鑑に取り上げられる
2014.10　「To a heart of children」Vol.5　開催
2016.10　「To a heart of children」Vol.SP　開催
2016.10　NHK 北海道「ほっとニュース北海道」に取り上げられる

To a heart of children Vol.V

ライブ動員数　60名
売上総額　97,984円（募金、CD 売上、チェキ募金含む）
内訳　チケット売上 55,000円、CD 売上 7,500円、チェキ募金 3,400円、募金 32,084円となり、「児童養護施設光が丘学園」に寄付しました。

詳しい収支決算書については HP 参照願います。

To a heart of children Vol.V

訪問先　児童養護施設 光が丘学園
（岩見沢市春日町2丁目3番7号）
訪問日　2014年11月16日（土）

児童養護施設への訪問も4件目になります。毎回感じるのは、本当に施設ごとにあり方が違います。

今まで訪問させていただいた施設では大凡の一日のルールがありました。光が丘学園さんでは、基本的な食事、学校へ行くなどのルールは存在するものの、他のことに関しては子どもたちの自主性を尊重することにして自分たちで決められるようにしているということです。

これは第３者側からみると、そういう施設の作り方もあるんだと驚かされました。固定概念ではあったと思うのですが起床時間から消灯に至るまで、一日の流れに沿ったルールがあってこそ施設の運営が成り立つんだろうと考えていました。

当初の光が丘学園さんは、ぎっちぎちに固められたルールがあったんだそうです。そのせいもあって、外部（ご近所さんや、学校、あずけている親など）からは、とても評判の良い子どもたちで、光が丘学園さんの評判も良かったそうです。

ここからは、正直どこまで書いて良いのか悩みどころではあるのですが、包み隠さず話していただけたということは、それも含めて取り組んできたと思われますので敢えて触れさせていただきたいと思います。

光が丘学園さんでは、過去に職員から子どもたちへの内部虐待がありました。実際にニュースにもなっています。

それが発覚して以降、今の施設長さんを基に改善に取り組みはじめ、組織の改編、理事全ての解雇、職員の入れ替えなどさまざまな改革を行ってきました。

相当なご苦労があったと思います。子どもたちに至っては、新組織の基で自分たちで自由に決めて良いんだとの突然の方針転換に、今まで信じて行ってきたこと自体が否定されてしまったので、誰を、何を信じて良いのか分からなくなってしまい改革当初は施設も荒れ放題になってしまった。

地域の人や、学校の先生や親などからも何をやっているんだと反発も強く、根気よく説明していき、子どもたちに対しても根気よく話し合いを重ね、失敗したとしても責めることはせずに、どうして失敗したのか、ダメだったのかを自分たちで考えていくようにしていき、結構な時間がかかったものの以前の荒れた体質からは改善されてきたとのことでした。

体制が変わったことにより、子どもたちも自分で考えるようになってきたり、施設側も親と綿密に関わっていくようになり、親の考え方や、接し方を変えていくことにより、親元に帰っても、また施設へ戻ってくることも減っていったということです。

できあがっている体制や考えを変えるというのは並大抵の気持ちで、やっていくことは難しいと思いますが、それでも子どもたちを信じ、同時に一緒に乗り越えてきた子どもたちや、施設職員さんには、ただただ凄いなと感じました。

あと他の施設とは違うなと思ったのは、光が丘学園さんでは光が丘学園基金というものを創設して、私たちのような外部からの寄付に関しては、通常は一切手をつけずに、大学進学への資金や就職する際の必要備品の購入に充てられています。もしかすると他の施設でも、こういうものは作っているのかも知れませんが、今だけではなく将来のことを考えて取り組む姿勢には素晴らしいなと思います。

今回の寄付に関しては、私たちの意思を尊重していただき、１月の雪中レクの一部に充てられて残った金額については、上記基金に充てらました。

自分たちの活動は、ほんのわずかな一片を垣間見たに過ぎませんから、現状は知らないことだらけですし、たまにとんちんかんなことを発言している可能性も否定はできませんが、それでも子どもたちへの支援は続けていきたいと再決意させてくれました。身が引き締まる大変貴重なお時間でした。

お忙しい中、お付き合いくださいました施設長の小野様、スタッフの方々、笑顔で接してくれた子どもたち、本当にありがとうございました。

To a heart of children Vol.SP

寄付先　児童養護施設 広安愛児園
（熊本県上益城郡益城町古閑73）

子どもが生まれて、多忙な日々が続き、なかなかチャリティーライブに取り組めていませんでしたが、周りからの背中を押してくれる言葉と、熊本地震で被災した子どもたちへ微力ながらも寄付をしたいという想いから、急遽開催させていただきました。

準備期間もろくにとれず、仲間に頼りっぱなしになっていましたが、無事に開催することができまして、本当に良かったと思っています。

熊本の地震のニュースは、東日本大震災とはまた違った印象を受けまして、立て続けに大型の地震が連発していることは、気持ちが安らぐ暇も与えてくれない状況で、津波や原発放射能漏れとは、別次元での恐怖だったと思います。

そして一番被害が大きかった町の情報を調べると、ピンポイントの益城町に児童養護施設があることを知りました。

全国からの物資も充分に届いているとの話もありましたが、何かしらの役に立てたらという思いで、少しでも寄付に協力いただきました皆さんの思いも乗せて、昨年は広安愛児園さんに寄付させていただきました。

To a heart of children Vol.SP

ライブ動員数　26名
売上総額　33,500円（募金、CD 売上含む）
内訳　チケット売上 26,000円、CD 売上 2,000円、募金5,500円となり、「児童養護施設 広安愛児園」に寄付しました。

詳しい収支決算書については HP 参照願います。

2014年開催時の会場費を、広告協賛・個人協賛をお願いまして、琴似商店街の協力いただきました店舗様を始め、個人の協賛に賛同してくださった皆様のご協力によって、会場費である「55,000円」の内「41,000円」をまかなうことができました。あらためて、心より厚く御礼申し上げます。

広告協賛・個人協賛以外の売上に関しましては、そのまま上記の売上総額の金額を寄付させていただいております。その点だけ、誤解なされませんよう、よろしくお願い申し上げます。

To a heart of children 活動報告